

上田高校 2 年生首都圏フィールドワーク同行記

原田義則 (3 組)

上田高校の 2 年生達が昨年に引き続きスーパー・グローバル・ハイスクール(SGH)活動の一環として 9 月 11 日と 12 日の二日間にわたり、「首都圏フィールドワーク」で関東(福島県を含む)一円の研究機関・事業所を訪問しました。私は今年も私の勤務先である筑波大学を 9 月 11 日に訪問した「環境・生命」グループ 37 名と、9 月 12 日に訪問した「テクノロジー (I)」グループ 20 名に同行しました。この訪問は一昨年から 5 年間の予定で文部科学省からの財務的支援を受けてスタートしたスーパー・グローバル・ハイスクール(SGH)事業の実施校として選抜された上田高校(長野県では長野高校と上田高校のみ)のグローバルスタディーの一環として実施されたものです。

「環境・生命」グループ 37 名と引率教員 2 名(花岡先生、塩澤先生)は 9 月 11 日朝上田を出発し、JAXA 筑波宇宙センターのスペースドームを見学の後、午後は筑波大学を訪問し、筑波大学が世界に誇る国際統合睡眠医科学研究機構の柳沢正史機構長(ご父君の故柳沢清史氏は戸倉出身で上田高校の 44-4 期)とそのグループ員による研究・キャリア紹介と生徒 3 名による課題研究プレゼンテーションと研究室見学がありました。生徒達の課題研究プレゼンテーション内容には調査が不十分な点もありましたが、昨年同様教員・研究員達からの質問には十分答えており、今後抽出した具体的課題に対し自分はどう対応するか、自分はどのように貢献するのかを明確にすることでより良い提案になり得るもので、今度の展開が楽しみなプレゼンテーションでした。「環境・生命」グループは 9 月 12 日には昭和大学の薬学部と附属病院を訪問したそうです。

一方「テクノロジー (I)」グループ 20 名と引率教員 2 名(細田先生、島崎先生)は 11 日に JAXA 筑波宇宙センターを訪問し、12 日には筑波大学を訪問しました。午前はアドミッションセンターセンター長の白川先生による筑波大学の概要説明と学生選抜要綱の詳細な説明の後、福島での放射性物質汚染対策で活躍しているアイソトープ環境動態研究センターを訪問しました。午後は核融合発電の研究拠点であるプラズマ研究センターの巨大な装置を見学し、見学後生徒達による環境・エネルギーの課題に対する調査研究プレゼンテーションがなされ、中嶋センター長を始めとする教員達との質疑応答が交わされました。「環境・生命」グループによるプレゼンテーション同様プレゼンテーション内容には未消化の点も見受けられましたが、問題意識は明確で将来の展開が楽しみなプレゼンテーションでした。

生徒達にも見学の最後に話したのですが、先生方の努力によるこの全員参加型 SGH プログラム(海外研修も実施)の企画・運営は素晴らしく、他の高校生に比べて如何に恵まれた環境にいるかを十分認識して、大学選択を含めたキャリア選択に大いに活用して欲しい所です。生徒達による課題研究プレゼンとその後の質疑応答を聴く限り、十分期待に応えてくれるのではないかと感じました。SGH 校なので上田高校を選ぶと言った生徒もいるとのこと「上田高校の今後は明るい」と感じました。

次ページ以降に関連写真掲載

国際統合睡眠医科学研究機構での柳沢正史教授による講演



国際統合睡眠医科学研究機構の研究室見学



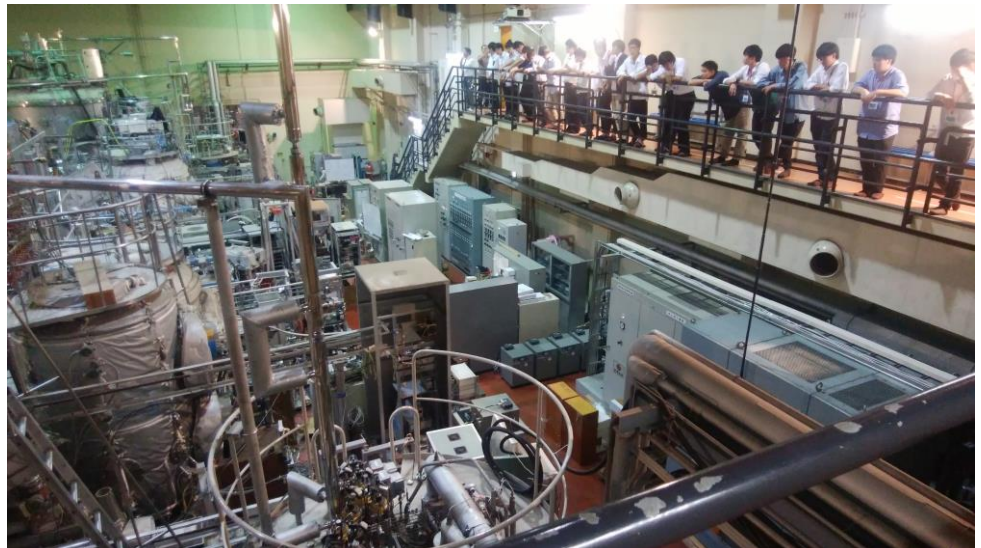
柳沢正史教授を囲んでの記念撮影



プラズマ研究センター
中嶋センター長による
タンデムミラー型核融合
実験装置制御装置の
紹介



世界最大のタンデム
ミラー型核融合実験
装置と説明を聴く生
徒達



生徒達による課題研究プレゼン
テーション



2016.9.30
筑波大学グローバル教育院 原田義則 (65期)